

この夏、CFNJ 聖書学院で聖書と聖霊を学びませんか！

CFNJ Summer School 4W WEEK

予告

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」
黙示録 2:7

今年の夏は装いも新たに、「CFNJ サマースクール」が開校されることになりました。一週間単位で、実績ある働きを行っている神の器であるゲスト・スピーカーをお招きし、週替わりのテーマでじっくり教えていただきます。北海道の爽快な夏を味わいながら、御霊が今諸教会に言われることを聞きにいらしてください。

Worship	●1週目 7/14 (月) ~ 7/18 (金) テーマ/「賛美礼拝」講師/林 幸司師
Word	●2週目 7/22 (火) ~ 7/25 (金) テーマ/「伝道・弟子作り」講師/ (調整中)
Wonders	●3週目 7/28 (月) ~ 8/1 (金) テーマ/「聖霊の賜物の活用」講師/スコット・ダウマ師
World	●4週目 8/4 (月) ~ 8/8 (金) テーマ/「ワールド・クリスチャンになろう」講師/スティーブ・ケイラー師

■期間：2014年7月14日(月)～8月8日(金) ※受講は一時間からでも受けることができます。

■費用：授業料/全4週(32,000円)・1週間(8,000円)/1時間(800円)

宿泊費/1ヶ月(30泊) / 1人部屋/32,000円 2人部屋/28,000円
 1週間(7泊) / 1人部屋/18,000円 2人部屋/14,000円
 1泊 / 1人部屋/3,000円 2人部屋/2,000円
 食費/1ヶ月(16日間) / 12,800円 (毎週土・日・月は各自で) (火～金の昼夕食分)
 4日間 / 3,200円 (火～金の昼夕食分)
 1日 / 800円 (火～金の昼夕食分)
 合計 / 全4週 / 72,800円 (2人部屋)
 1週間 / 25,200円

■お申し込み、お問い合わせは、学院事務局までご連絡ください。

学生制作 CD 「1st CD "For you..."」

2013年12月24日、ついに1st CD "For you..." が出来ました！

■すでに多くの方が伝道に、友達へのプレゼントにと用いてくださっていることを嬉しく思っています。同じ時代に同じ場所で生きれるって、本当にすごいことだと思うんです。あなたと出会えたから今の私がいるよ、あなたと共に笑って泣いて生きていくよ、あなたの存在にありがとう、そんな思いが詰まった



お気軽に学院事務局迄ご連絡ください！
担当/安達 郁里

だからこそ人々が神さまの大きさを知る。ひとりでも多くの人の心へ、神さまの愛が届きますように。CDは1枚300円で販売しています。

2013年度 CFNJ聖書学院 会計報告 (2013年1月～12月)

収入		支出	
前期繰越	5,789,481	給与手当	19,969,400
USA 献金	15,975,726	謝礼金	1,236,006
団体献金	3,599,900	対外献金	374,000
個人献金	3,090,337	水道光熱費	7,363,520
授業料収入	3,948,800	旅費交通費	991,506
寮管理収入	6,296,500	印刷費	354,450
食費収入	1,834,470	通信費	945,223
その他の収入	800,907	消耗品費	570,331
		火災保険	247,520
		修繕・維持費	1,249,678
		食費(材料費)	1,955,879
		広告費	274,815
		その他の支出	1,021,328
		支出合計	36,553,656
		次期繰越	4,782,465
収入合計	41,336,121		41,336,121



宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネーションズ日本校

CFNJ 聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343

●HP: www.cfnj.com 郵便振替: 02780-4-4688
●e-mail: office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文



あなたの心を水のように、
主の前に注ぎ出せ。
主に向かって手を差し上げ、
あなたの幼子たちのために祈れ。
哀歌2章19節

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネーションズ・ジャパン 聖書学院
2014年4・5月号 NO.155

「リバイバルの為の祈り」

「ハンナの祈り」

学院長 鍛冶川利文師

「ハンナは答えて言った。「いいえ、祭司さま。私は心に悩みのある女でございます。ぶどう酒も、お酒も飲んではおりません。私は主の前に、私の心を注ぎ出していたのです。」

1サムエル記1章15節

旧約聖書にハンナという一人の女性が出てきます。この女性は祈りによって国を救った人でした。歴史を変えた女性です。以前、NHKの大河ドラマで「八重の桜」が放映されましたが、新島八重は明治維新の時代に鉄砲を聖書に持ち替えて、人を殺す道具から、人を生かす聖書を武器に国造りに貢献した女性でした。日本のジャンヌダルクと呼ばれました。ハンナもイスラエルの建国の時代に神に用いられた女性です。ハンナは祈りを通して、新しい時代を生み出すリバイバルの為の産みの苦しみをした女性です。教会の歴史を振り返ると、時代を変えるような大きなリバイバルは、常に危機的な状況下で起こりました。ハンナが生きていた時代も士師の時代と呼ばれている困難な時代でした。この時代はイスラエルがあるべき重大な3つのものを失っていた時代でした。

1. 王がなかった。

「そのころイスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた。」(士師記17章6節)
「王がなく」という言葉がこの箇所以外に3回も出てきます。(士師記18章1節・19章1節・21章25節) これは悪い意味で言われていることです。それは権威の元のない無秩序な状態で、羊飼いがいない状態でした。更に「めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた。」とは、自分勝手に善悪を判断し、部族同士で対立し、互いに協力しあうことや神に従うことをしない、自己中心の時代という意味です。これらはある意味で、今の時代にも当てはまることです。イスラエルにとっては神ご自身が王であるはずですが、しかし、民は王なる神を敬わず、

自分自身が王となっていました。

2. 祭司の権威がなかった

「その日、エリは自分のところで寝ていた。彼の目はかすんでいて見えなくなっていた。」(1サムエル記3章2節)
この時代にエリという祭司がいましたが、彼は老齢になり視力が衰え、目がよく見えませんでした。これは祭司としての霊的な勤めが十分に果たせないと言うことです。この事は自分の息子たちの教育にも影響してしまいます。エリの二人の息子、ホフニとピネハスは神に対して重大な罪を犯し、神の厳しい裁きを受けます。その結果、エリの跡取りはいなくなります。これは当時の霊的な状況でした。

3. 神からの預言・幻がなかった。

「～そのころ主の言葉はまれにしかなく、幻も示されなかった。」(1サムエル記3章1節)
この当時、神は民に何もお語りになりませんでした。神は民の為にどのような指示も示しませんでした。その理由は、イスラエルの民自身が神を真剣に求めていなかったからです。この王職と祭司職と預言者という働きは、旧約時代に民を導く為に、神が備えた特別な器でした。しかしそのどれもが不足していました。不十分でした。けれども希望があります！それはどんな状況でも神の臨在は確かにあり、リバイバルの火種は消えていないということです。

「神のともしびは、まだ消えてはいず、サムエルは神の箱の安置されている主の宮で寝ていた。」(1サムエル記3章3節)

「主が胎を閉じておられた。」

ハンナは自分自身を「心に悩みのある女」(1サムエル記1章15節)と呼んでいます。その悩みとは、自分が子を産めない不妊の女であるということでした。ハンナは夫エルカナとの子供を求めています。この当時は一夫多妻で、同じ妻のペニンナには既に子供がありました。この時代、子を産めないという事は、自分の存在価値を失わせるようなことでした。夫は悩むハンナを気遣い「あなたにとって私は10人の息子以上の者ではないか。」(8節)と慰めます。しかしその言葉だけでは癒される事が出来ない程、ハンナの悩みは深刻でした。それは妻として、女性として、そして、一人の人間としての苦悩でした。その上、同じ妻のペニンナからの嫌がらせもあり、ハンナは精神的に追い詰められていきます。なぜ？このようなことが起こるのでしょうか。どうして？このような不運をハンナは背負わなければならなかったのでしょうか。その理由について聖書は驚くべき言葉を語ります。「主が胎を閉じておられた。」(5節) 何と！この事を仕向けたのは神でした。神が原因でした！聖書を読むと、時折、「なぜ？どうして？」と思わせる箇所が出てきます。どうしてこんな言葉が聖書にあるのか？神が人を不幸に陥れるような事があるのだろうか？よく分かりません。しかし、聖書が敢えて記しているからには理由があるのです。計画があるのです。それは人の営みを超えて働く神の御心によることです。

「ハンナの選び取りは祈りであった。」

この現実を前にして、ハンナにはいくつかの選び取りがありました。それは自分をいじめるペニンナに復讐するのか？しかし、ハンナは、ペニンナに対しての復讐は考えませんでした。次に、アブラハムの妻サラのように、夫にその怒りをぶつけ「あなたが全部悪いのよ！」と責めるのか？ハンナはそれもしませんでした。更に、悲しみのあまり自暴自棄になり、自らの命を絶つのか？もちろんそれもしません。又、願いをあきらめ、人生の方向を変えて他のことに労力を注ぐのか？この選び取りは当然のように思えます。しかしハンナは諦めませんでした。他の道を選ぶことはできませんでした。神の定めに従ってでも、強引なまでに子供を得たいと願いました。その願いを捨てませんでした。このハンナの強引さは恐らく、神がそのような働いていたからでした。リバイバルの訪れも失望せずに求め続けましょう！諦めないで、全ての解決を主に求めていきましょう！壁に突き当たり、不幸に直面し、災いが襲ってきても、すぐに「これは誰々のせいだ！」「やっぱりあれが悪い！」「もうだめだ！」とあきらめず、その理由と解決を主に求めましょう！ハンナはただひたすら神に祈りました。

ハンナは7つの方法で祈りました。1サムエル1章

1. ハンナは、断食をして祈った。(7節・8節)

～ハンナは食事を取ろうとしませんでした。

2. ハンナは、心震わせて祈った。(10節)

～ハンナは激しく泣きました。

3. ハンナは、神様に誓って祈った。(11節)

～ハンナは神に誓いをたてました。

4. ハンナは、神様を信頼して祈った。(11節)

～ハンナは神を「万軍の主」と呼びました。

5. ハンナは、確信をもって祈った。(11節)

～ハンナはあきらめず、あくまでも男の子を求めました。

6. ハンナは、神の前に長く祈った。(12節)

～ハンナは我慢強く祈り続けました。

7. ハンナは、神の前に心を注いで祈った。(15節)

～ハンナは心の内で祈りました。

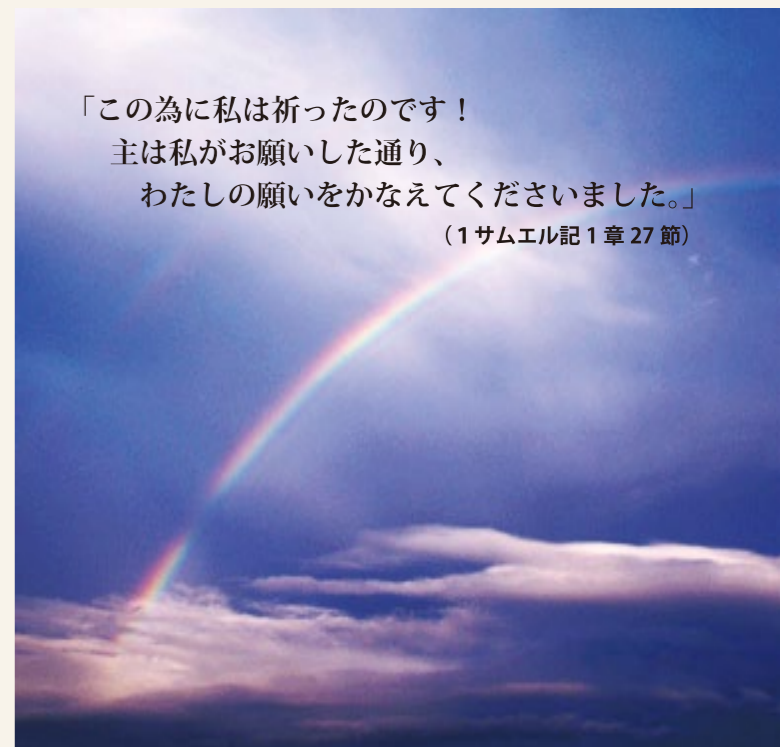
ハンナの祈りは虹のような7つの面をもった祈りです。虹は神との約束のしるしです。そのハンナの祈りは神様に届きました。その祈りの末に神からの確信が来て、ハンナの表情は変わりました。

「帰り、食事し、顔はもはや以前のようなではなかった。」(18節)そして、やがてその確信は現実となります。その後ハンナは身ごもり、子を授かります。それがサムエルの誕生でした！

やがてハンナが産んだサムエルは成長しイスラエルの指導者となり、混乱したイスラエルの国を神に向かわせ、神の代理者として国を建て直し、礼拝を建て直し、神の臨在を建て直し、王を定め、やがてダビデ王を任命し、イスラエルに長く続く繁栄をもたらします。そして、そのダビデの子孫はイエス様の誕生まで続きます。そして遂に、イエス様が全人類の救い主として、救いの道を切り開かれます。その道の最初の一步は、「ハンナの祈り」からでした。ハンナはごく普通の女性でした。特別な賜物やカリスマ性はありませんでした。身分も高くなく弱い女性です。まして不妊という不幸を背負った人でした。でも、その必死の願いと祈りに神は答えて下さいました。

必ず日本にも神の訪れがやって来ます！私達もハンナのように、失望せずに神の憐れみ、リバイバルを待ち続けましょう！

「この為に私は祈ったのです！
主は私がお願いした通り、
わたしの願いをかなえてくださいました。」
(1サムエル記1章27節)





牧師・リーダー養成コース (ALPS) 授業

この記事は学院のアルプスコースで教えられた講義の要約です。今回を含めて合計3回のレポートで記載されます。最初の記事は、「人が緊張の様々なレベルをどのように認識するか。」を検証しながらストレスの意味を定義します。二回目の記事は、「人体への影響について」を考えます。最後の記事では、「リーダーが職場、奉仕、家庭あるいはそれらすべての複合環境において直面するストレスをどのように減少させるか。」について述べます。

ストレスの理解と管理の仕方②



「ストレスとは何か？」

ブルース・マクドナルド博士

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからです。」マタイ 11章 28節～30節

神の創造の傑作として人間

古代イスラエルのダビデ王は、神の驚くべき御業について、詩篇の中でこのように美しく描写しました。

『あなたが私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられたからです。私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは、それをよく知っています』(詩篇 139篇 13節～14節)』

この詩篇が語っていることは、まずダビデ王自身が、自分の身体が神がお造りになった驚くべき創造の作品であるを知っていたことでした。そして、更にその創造は他の被造物と違う、とてもユニークな存在であるということを知っていたことでした。しかし、だからと言って、ダビデ王が生きていた時代(紀元前11世紀)では、人間の身体の複雑な構造や、生理的な事柄を、充分には理解できてはいなかったでしょう。

人間は自分が意識しなくても、理性的であろうと考えたり、無意識のうちに言葉を発することが出来たり、又、ケガなどから自らを守る回復力(自然治癒力と呼ばれるもの)があったりと、人間本来に備わっている多くの能力があります。それはある目的をもって神によって組み込まれてい

るものです。その意味で人体は驚くべき機械なのです。しかしそれは有機的な機械であり、生きている存在です。このようなことは未だに充分に人類が解明できない未知の分野です。そして、このことは「ストレス」とは何かについて考えることにも当てはめられます。

ストレスのメカニズム

ストレスについての研究の初期段階で、ハンス・セリエ博士(カナダ人の内分泌学者。博士はストレスという言葉を作った最初の研究者。)は、「病気の性質を知り、それを正しく理解することは医学上もっとも重要なことである。なぜならそれが、病に對抗する最も有効な手段となるからである。」と説明しています。したがって、病気を発症させる原因として、ストレスが人体にどのようにかかわっているのか、そのメカニズムを知ることはとても重要なことです。一つの例として、人体に起こる連鎖反応を見てみましょう。例えば、人がある種の苦痛(ストレス要因)を感じているとします。その場合、まずそのストレスは、最初に「大脳皮質」(脳の思考などの中枢)によって認識されます。そして、すぐにその信号が、脳の様々な異なる部分へと発信されていきます。まず「海馬」と呼ばれる脳の記憶や学習機能に関わる器官で認識され、その結果、身体全体にストレスの警報を



鳴らします。その警報を聞き、体は攻撃的になるか、又、逃避的な行動をとるかの次の行動への備えをします。そして信号は、「視床」と呼ばれる視覚や聴覚など感覚を感じる器官へと伝えられ、更に「視床下部」へと送られます。視床下部の働きは、自律神経や副腎皮質ホルモンの分泌などのバランスを整える器官です。そしてその信号の一部はもとの大脳皮質へと戻され、大部分は中枢神経系へとメッセージを伝えます。この時点で身体はいわば、完全な警戒態勢に入ります。そして、身体他の部分、心臓の血管や消化器官、及び、筋肉や皮膚(肌)などが活発に動きだします。これは突然のストレスの要因に対処する為の、人の自然な反応として神が造ったものであり、人体を調節するのを助ける役割をします。しかし、あまりにも大きなストレスが人にかかり、身体が対処出来なくなった場合、ストレスは免疫系を衰弱させる原因となります。特に、白血球に影響がでできます。通常、人はおよそ一兆個の白血球を持っています。この白血球は三つのカテゴリに分類され、それは、食細胞、T細胞、及び、B細胞です。この三つは共に調和して働きながら、外から侵入してくる細菌から体を守ります。そして、次に来る攻撃に対しても、その攻撃から身体を守る為の抗体を作りだします。しかしながら、もし大きなストレスが、それも継続的に身体に及ぶならば、人の身体は感染と戦うための免疫力や必要な細胞を減少させてしまいます。そしてその最終的な結果として、人の身体は様々な病気や疾病などに犯されやすくなり、健康を害する大きな要因を与えてしまいます。

聖霊の宮としての身体

使徒パウロは、キリストにある信者の肉体は聖霊の宮であり、ゆえに主の宮を大切に世話をすることを委ねられていると記しました。「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。」1コリント6章19節・20節

この御言葉は、単に霊的な例えとしてのみ理解されるべきものではなく、個々の身体に対して、又、社会的な観点からも理解されるべきものです。つまり人は、健康を促進するための努力だけでなく、精神面で、過大なストレスが継続的に身体にかからない生活をするを心掛けるべきです。その意味で、全てのリーダーは、リーダーの元で働く人々に対しての、健康面の促進やストレスを除去するための予防の責任を理解する必要があります。ストレスや生活習慣について完全にコントロールすることは難しいことですが、日々の生活の中でいくつかの事を守ることは大きな助けになります。具体的に言えば、清潔な水を欠かさないことや、食事に対する配慮。感染症に対する予防接種や日々のビタミン剤やサプリメントを飲むこと。そして週に3回～4回の適度な運動を推奨するといったプログラムです。

ここまでが、ストレスを理解し管理する方法を探る三回連載記事の第二回目です。最終回は「休息の重要性」を探ります。その時まで、この記事の著者は、旧約聖書からのこの御言葉を持って終わります。

「わが子よ。私のことばをよく聞け。私の言うことに耳を傾けよ。それをあなたの目から離さず、あなたの心のうちに保て。見いだす者には、それはいのちとなり、その全身を健やかにする。」箴言4章20節～22節

■ブルース・マクドナルド博士は、「リーダーシップ」、「マネージメント」、そして、「職業的ストレス認識と予防」の教育セミナーを提供する、リニューアル・コンサルティング社の経営責任者です。日本をこよなく愛し、毎年のようにCFNJ 聖書学院に来て、講義をしてくださいました。夫人のマリンさんと結婚 33 年、二人の息子さんと二人のお孫さんがおり、アメリカで最も古い町、バージニア州ウィリアムズバーグに在住しています。



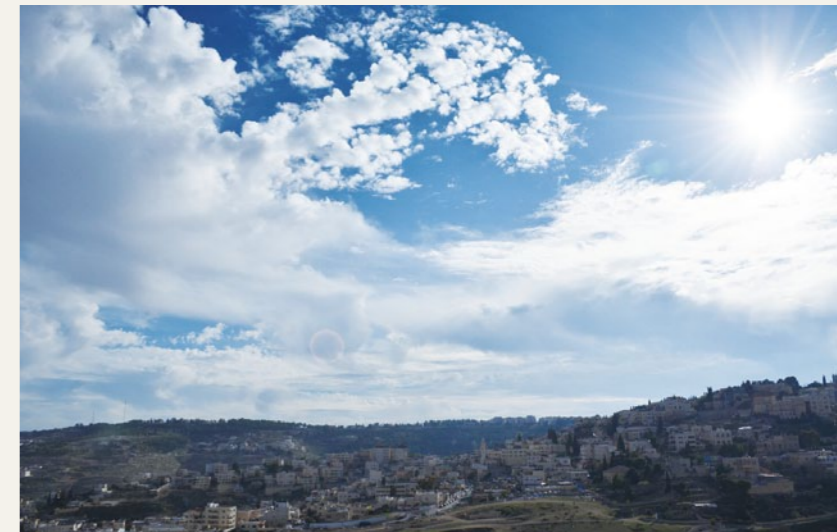
■参考文献/アーント、ウィリアム & F.ウィルバー・ギングリッチ (1979)「新約聖書と初代クリスチャン文学のギリシャ語・英語彙目録」第2版。シカゴ:シカゴ大学出版。グリーンバーグ、ジェラルド (2006)「包括的ストレス管理」第9版。ニューヨーク:マグローヒル出版社。ヘルリーゲル、ドン&ジョン・スローカム(2011)「組織行動」第13版。メーソン:サウスウエスト・センテージ・ラーニング株式会社。みことばは新欽定訳聖書を引用。(日本語は新改訳聖書より引用)。シーワード、ブライアン・ルーク (2004)「ストレスを管理する:健康と幸福のための原則と戦略」第4版。サドベリー:ジョーンズ&バートレット出版社。



嘆きの壁



エンゲディでの礼拝



ベツレヘムの町

30周年記念 CFNJアウトリーチ

イスラエルレポート!

2014年1月9日～15日まで

ハレルヤ!素晴らしい主の御名を賛美します!
 神様の御手に導かれイスラエルへの研修旅行を無事終えることが出来たことを心から感謝します。本当に素晴らしい旅でした。学院の創立30年の節目にふさわしい時だったと思います。今まで学院のアウトリーチとして様々な国に福音を携えて行きましたが、今回は、福音の発信地、イエス様が歩まれた地、聖書の世界、神がイスラエルの民を導き入れた約束の地に行くことが出来て、とても胸躍る感激の連続でした。私自身は2度目の旅行ですが、今回は前回以上に沢山の恵みを体験することが出来ました。

出発前の恵み

今回は学院の30周年記念として、2014年1月にイスラエル旅行に行くことを決定してから、実際に出発するまで、正直、本当に行くことが出来るのか?少し不安を感じていました。総勢28名、総額800万円近くの旅費が見込まれていました。これを果たして期日までに旅行会社に入金出来るのかどうか最後の最後まで大きなチャレンジでした。旅費30万円は大きな金額です。特に学院生にとっては大きな負担だったと思います。しかし、一人一人がベストを尽くし、祈りながら行くかどうかも含め、このチャレンジを全員で乗り越えることが出来ました。結局、出発までに外部から100万円以上の献金が捧げられ、すべての旅費が満たされました!神様に感謝を捧げます!そして、何よりも捧げていただきました支援者の皆様に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました!この事を通して、今回、私達がイスラエルに行くことが神様の願いでもある事を強く感じ、行く前に既に大きな神様からの恵みを頂きました。

5日間の恵み

今回、出発前に特に感じた思いは、神様は「来なさい。そうすればわかります。」(ヨハネ1章39節)の御言葉通り、とにかく私たちがイスラエルに行き、実際にイエス様が歩まれた地を単純に見ること、感じることで、体験する事を願っておられるという思いでした。私にとっては前回



エルサレムの黄金門



ヨルダン川

もそうでしたが、イスラエルの地に立って、あらためて感じる事がたくさんありました。本当に聖書の言葉の意味が少しずつ見えて来た思いでした。ガリラヤ湖周辺の自然の美しさ。その湖から死海へと注がれるヨルダン河の流れ。乾ききったユダの荒野の厳しい自然。見るものすべてが神様からの語りかけに聞こえてきました。イスラエルは正に目で見える聖書の世界です!特に感動したことは、今回、ダビデの要害があったエンゲディに行くことが出来たことです。ダビデが「水もない、砂漠の衰え果てた地。」(詩篇63篇1節)と歌った荒野の中に、豊かな泉を見ることが出来ました。今回、私達を導いて下さった素晴らしいガイドのくに子さんが、この場所で一言、話して下さった言葉がとても印象的でした。それは「どんな荒野や砂漠の中にも地下深くを掘れば、必ず水脈があります。」の言葉です。見えるところは荒野の世界が広がっていても、私の足元には恵みの泉が流れている事を改めて知らされた思いでした。

チームの恵み

今回、スタッフ、学院生の他、大野先生ご夫妻と九州から後藤さん、そして、卒業生の金子兄と一緒にツアーに参加していただきました。このメンバーと一緒に旅が出来たことが、とても大きな祝福でした。毎朝のデボーションの中で祈りや分かち合いをしながら、イスラエルのおいしい食事を味わい、そして、その日見たものや感じたことをお互いに分かちあえたことは、今回の旅の忘れられない思い出です。そして謙遜で優れたガイドのくに子さんとユダヤ人であるご主人が闘病中であるにもかかわらず私達と一緒に旅をして下さり、特にバスの乗り降りの際、笑顔でいつも励まして下さいました。今回のツアーの設定や、料金引き下げの為に尽力下さったホーリーランドの社長の石田さん、妹尾さんに心から感謝いたします。そして何よりもこの旅行の全ての必要の為に祈り、支え、捧げ、そして、旅の安全の為に期間中にとりなして下さったすべての皆様に心からの感謝を申し上げます。そして、最後にすべての感謝と栄光を主に捧げいたします。恵みに感謝!

学院長 鍛冶川利文



カイザリヤの円形競技場



ピリポカイザリヤ



ガリラヤ湖畔



オリーブ山を背にして



園の墓の前での記念撮影



聖餐式



卒業・修了おめでとう!

学びを終えて新たな旅立ち



●3月7日(金)午前9時より、2013年度の卒業式が執り行われました。学院の顧問である奥山実師ご夫妻をお迎えして、この日7名の卒業、および修了生が学院の学びを終えて、それぞれの任地へと送りだされました。道内外からたくさんの方々が来られ、この門出をお祝いしていただきました。式の後、祝会が催され、ドラマコースによりエステル物語が上演され旅立つ学生たちに大きな励ましとなりました。



1年聴講修了
村西 麻依

■私は一年で修了することになりましたが、この学院に主が導いてくださったと、今心から思い感謝します。神様は私の頭の中で「出来ない」という思いを「主に在って出来ない事は無い」という思いに変えてくださいました。私が弱いときにこそ主は強いのだと、私が誇れるものは主の御業、主が私にお与えになったものだけだと知りました。



1年コース修了
矢崎 弘志

■わずか1年間の学びでしたが、人生で忘れられない時間となりました。学院に来るといふ決断の背景には、家を建てることと、そのローン返済のための収入、収入確保のための安定した仕事というクリアしなければいけない問題がありました。神様はその全てを満たしてくださいました。学院での学びと仕事をしながら、神様の栄光を表すクルニックを開業するというビジョンを与えられました。4月から母教会の兄弟とともに、教会の二階を借りて「ホサナファミリークルニック」という訪問専門のクルニックを立ち上げます。学院で学んだことを生かし、遣わされた者としての務めを全うしていきたいと思えます。



2年コース卒業
中田 扶美子

■神様の守りと導きの中で、無事卒業できたことを感謝します。ここで学んだ二年間は、私にとって今までの信仰生活を見つめ直す良い機会となりました。また、沢山の人の出会いの中で、勉強だけではなく、いろいろな面で教えられ、考えさせられることがありました。ここで学んだことをいつまでも忘れないで、これからの信仰生活に役立てたいと思います。



アルプスコース卒業
高橋 泉

■すべてを主に感謝します。あの震災で押し出されるようにして、この学院に入学して3年。主のみわざは不思議です。私の人生でもっとも貴重なとき、主の愛にどっぷりと浸される毎日でした。これほどの恵みを受けた者として、今度はイエス様の手足となって、この素晴らしい愛を運んでいきたいと願います。祈り支えてくださった皆さん、本当にありがとうございました!



アルプスコース卒業
田中 政人

■通学中、学院に通うのもあと一週間と思った時、今、運転していることが、ふと過去の出来事のように思え、主の働きをする自分の未来も過去のように思えました。主の計画である私の為の良い行いが、すでに用意されていること、主がすでに勝利されたので、そのプロセスは例えどんなことであっても、勝利から見れば過去と同様に捉えることができるんだと理解できました。全てに感謝します。



アルプスコース卒業
大久保 望信

■「私はあらゆる時に、主をほめたたえる。私の口にはいつも主への賛美がある。詩編34篇1節」
この御言葉が私は大好きで、まさにこの3年間はそれを実践する訓練の時でした。弱さがあるから主の恵みを知る事ができ、足りなさがあるから主の力を知ることが出来ました。いつも主を見上げ、置かれた場所で主を礼拝していきます。



アルプスコース卒業
福島 牧人

■2011年の春、1人で入学しました。2014年の春、3人で卒業式を迎えました。これは、すべて主の恵みです。主は、足りない者を聖霊で満たし、弱い者を主にあって強くし、貧しい者を信仰に富ませ、神の国を生きる者としてくださいました! ここまで導いてくださった主に、また支えてくれた妻と娘、多くの方々に心から感謝します!!



定期献金のお願ひ

「私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。」
ヨハネ1章16節

主の恵みにより CFNJ 聖書学院は、創設 30 周年を迎えることができました。30 周年を迎えるまでに学院は様々な危機を知らされてきましたが、その都度主は恵みによって私たちを支え、備え、力付けて来てくださいました。

この間多くの主にある兄弟姉妹が、多くの祈りと献金を持って支えてくださいましたことを深く感謝いたします。

この4月には、8名の新入生が入学し、合計20名の学生が日々聖書を学び、祈り、賛美し、奉仕をし、互いに交わり、地域社会への伝道を行う事によって、訓練を受けています。

学院では、灯油の高騰や物価の上昇などに伴い運営維持費が増加しています。それに加えて、今年は学生数が伸びず、米国からの献金も大幅に減ります。昨年末に、300万円の緊急な必要がありましたが、日本で学院のために祈ってくださる多くの方が献金を持って支援してくださったことにより、そのすべての必要が満たされ、心より感謝しています！しかし、その後も、運営維持費の必要が継続しており、現在150万円の必要を覚えています。

どうか、CFNJ 聖書学院への「定期献金」を考えていただけないでしょうか？今私たちが祈り求めているのは、学院を、毎月定期的に支援して下さる方が増し加えられることです。学院の運営は、支援して下さる諸教会や個人の方からの献金でまかなわれています。学生の授業料や寮費は運営維持のための費用全体の約30%で、残りの必要は神様の大きな祝福と支援して下さる方々の惜しみない献金によってまかなわれています。定期献金の方法には次のオプションがあります。

●郵便振替

●銀行口座への振り込み

※ゆうちょ銀行総合通帳（旧郵便貯金ばるる）をお持ちの方には、『自動送金サービス』が便利です。一度、申し込んでいただきますと、毎月定額が自動的に送金されます。詳しくは事務局にお尋ねください。



2014年4月 CFNJ 聖書学院
学院長 鍛冶川利文

どうぞ、北海道、そして日本全国における神の栄光の訪れのために、CFNJ 聖書学院の毎月の運営維持を覚えて、特別にお祈りくださるよう、また、ご支援くださいますようお願いいたします。スタッフ一同、皆様のご支援を感謝すると同時に、主からの豊かな御恵みがありますよう、お祈り申し上げます。

CFNJ 特別講義と ゲストスピーカー

●ゲストスピーカーの授業は、どなたでも無料で聴講出来ます。（自由献金制、テキスト代有料。）通常の授業も聴講が出来ます（有料）又、入学を検討されておられる方には、無料体験入学制度もありますので、詳しくは事務局までお問い合わせください。



4月14日（月）
～18日（金）迄
ロルフ・ガルサ 師
メキシコ アミスタ・
デ・モントレ牧師・学
院理事長

1・2時間目



5月19日（月）～
23日（金）迄
有賀喜一 師
全日本リバイバルミッ
ション代表。リバイバ
ル聖書神学校校長

1・2時間目



CFNJ 聖書学院
ゲストの講義が
リアルタイムで
無料配信!



Podcast が配信されました!

iTunes で、CFNJ と検索すると聞くことができます。また iTunes を持っていない方や、ダウンロードされたい方は、ブログから聞かれるか、ダウンロードしてください。USTREAM でも、ゲストの講義が、リアルタイムで配信されていますのでご覧ください。過去の講義も、見ることができます。尚、全てのゲストが配信されてる訳ではありません。引き続き、様々なゲストや講師の講義をアップしていきたいと思っております。皆様の励ましになることを祈っています。

CFNJTV

<http://www.ustream.tv/channel/cfnjtv>

<http://cfnj.seesaa.net/>

※講義の購入、ご意見、ご要望がございましたら、office@cfnj.com までお願いします。

2014年度 1学期

授業カリキュラムスケジュール

(2014年4月14日(月)～7月4日(金)迄)

1・2年コース (必修科目) ●毎朝の賛美礼拝は8時からです。(敬称略)

	月	火	水	木	金
1 AM8:45～9:40	新約聖書概論 I 田中 信矢	詩篇の学び 田中 博	日本教会史 鍛冶川利文	幕屋の学び 松原 望	山上の説教 鍛冶川利文
2 AM10:00～10:55					
3 AM11:05～12:00	今日の聖霊 G・グドール	賛美の土台 岡田 留美子	児童伝道 内越 努	今日の聖霊 G・グドール	エリヤとエリシャ J・ジャンセン

アルプスコース (必修科目) ●毎朝の賛美礼拝は8時からです。

1 AM8:45～9:40	宣教と 開拓伝道 R・グドール	牧会 セラ リ ン グ ウ ン I 小栗 昭夫	霊的戦いの学び 岡田 好弘	ヨブ記 I 石田 吉男	聖書釈義 I 松原 望
2 AM10:00～10:55					
3 AM11:05～12:00	近郊の牧師	伝道の マスタープラン 鍛冶川利文	弟子訓練 金 聖圭	伝道の マスタープラン 鍛冶川利文	

選択科目

午後 PM13:00～15:00	タンバリンクラス 鍛冶川 紀子	英語クラス G・グドール	ドラムクラス チップ・ブラウン	実習 (必修)	ドラマ演劇 クラス 鍛冶川 紀子
	ボイストレーニング 新井田 路子		ピアノクラス 新井田 路子		